

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方  
～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～

I 研究テーマにかかわって

自然環境は全ての生き物の生活基盤であるが、人間はこれまで自然を破壊し、あたかも人間だけが特別な存在であるかのように自然に対して大きな負荷を与え、再生不可能ではないかと思われるような開発を行ってきた。その結果、地球は、大気汚染、海洋汚染、オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、水質汚濁、食糧問題、人口問題、エネルギー問題、絶滅が危惧される動植物の数々…。実に様々な環境問題を抱えるようになった。また、福島第一原発による放射能汚染は、終わりの見えない最大の環境問題である。

これら問題を解決するためには、私たちの生活と自然とのかかわりにどのような問題があるのかという実態を正しく把握し、その原因を追求することが大切である。また、環境問題を引き起こしている社会経済の仕組みも理解し、環境に配慮した仕組みに変革していく努力も大切である。私たち一人ひとりが、問題解決のために何をしなくてはならないかを考え、実行していくことが必要とされている。

本部会では、まず、私たちが科学的な知識に裏付けられた環境に対する現状認識を深めるとともに、環境問題を自分の課題としてとらえ、主体的に取り組んでいけるような子どもの育成をめざしていききたい。そのためにも、子どもたちが自然に親しみ、自然の素晴らしさや不思議さに気付くことができるような環境学習の機会を重視して、環境に対する豊かな感受性を育てていきたい。

II 研究内容

1 研究授業

(1) 第4学年 総合的な学習の時間「学校林自然学習について」

授業者 阪本 辰彦 教諭 (神金小)

- ・身近な学校林がシカの食害にあっているのを見て、これまでの学校林を育てる活動を改めて振り返り、その対策を考える機会とする。

(2) 第6学年 理科「地球に生きる」…冬のフィールドワーク… (野外授業)

授業者 向山 潤・武井 文明 教諭 (笛川小)

- ・身近にある自然の中に、様々な生き物が住んでいることに気づかせる。活動がにぶくなる冬でも、それぞれの環境に合わせた形態で命をつないでいる様子に気付かせる。

数人のグループでテーマ(葉の表と裏、虫、木の幹、キノコ)を決め、デジタルカメラでとったものを持ち寄り、発表し合う。

2 一人一実践

部会員一人ひとりが日々実践していることを報告し、意見交換をする。

3 臨地研修

大菩薩峠(1897m)での自然観察会(シカの食害の状況を中心として)

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 研究授業

神金小学校の実践では、学校林の自然学習から、子供達が体験的に自然を身近に感じながら理解し大切にすることを育むことができたと思う。特に、統一授業研では、子供達が住んでいる地域において、普段課題として聞いてはいるものの詳しく知らない「鹿の食害」について様々な資料を通して知るとともに、ただ単に大切にすることを守るということだけでは、自然を維持していくことができないことや、自分たちがどのように関わっていかなければならないかを考え学ぶことができたと思う。

様々な取組を行い、子供達が自然を身近に感じ、その素晴らしさや不思議さに気付かせることができたと思う。

2月の野外授業では、隼山路周辺を3つのグループに分かれて散策しながら、冬の生き物や植物を探す活動を行った。見つけた生き物や植物の様子をデジタルカメラで撮影し、記録とした。テーマに沿って撮った写真をもとに発表会をした。どのテーマにも関心をもちながら聞くことができた。研究会では、周辺の地形の特徴や身近な自然環境の授業への取り入れ方について学び合うことができた。

どちらの授業も、研究テーマにかかわる体験的な活動をメインとした内容であり、自然の素晴らしさや不思議さを、体験を通して気付くことができ、自然を身近に感じることができた。体験から得た気付きは、大人になっても忘れることはなく、環境問題を考える基礎を培うことができたのではないかと思われる。

#### 2 一人一実践

部会員一人ひとりの得意な分野を生かした実践が紹介された。3学年では、植物に油が含まれていることを本で知り、実際に絞り機を作って絞った実践が紹介された。市販の教材に頼らないリメイク・リユース・リサイクルな図工の授業の紹介。シカなど動物の狩猟（銃）についての紹介。キノコ栽培の紹介。環境問題の紹介。

それぞれの部員が実践を持ち寄り、相互に新しい知識や取組を教え合えたことはよかったと思う。

#### 3 臨地研修

統一授業研に向けての大菩薩峠での臨地研修では、授業で活用する資料を実際に収集しながら、「鹿の食害」の深刻な状況を目の当たりにし、本やマスコミなどの情報としては見聞きしていたが、実際の状況を現地で観察することにより、子どもたちにより正確で熱のこもった情報を伝えることができたと思う。

(部長 渡邊 光章)